



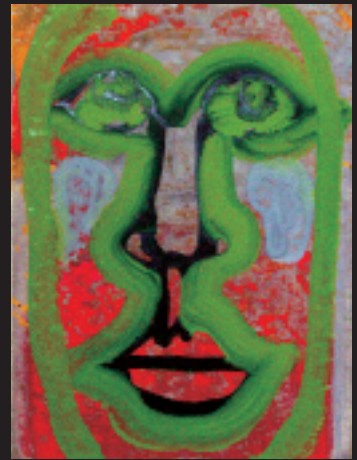
「顔」 1973年頃  
和紙  
岩絵具



「顔」 1963年頃  
キャンバス  
油彩



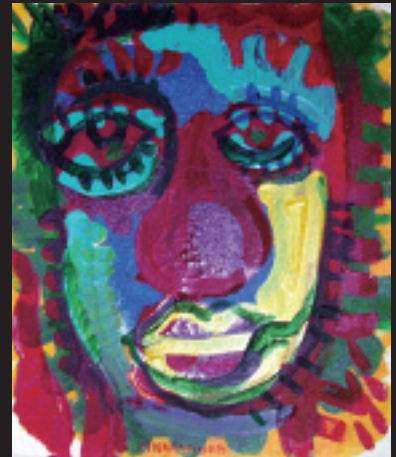
「顔」 1963年頃  
キャンバス  
油彩



「顔」 1973年頃  
33.5×24.5 和紙  
岩絵具



「顔」 1960年代  
キャンバス  
油彩



「顔」 1963年頃  
キャンバス  
油彩



「顔」 1974年頃  
和紙  
岩絵具



「顔」 1963年頃  
色紙  
岩絵具



「顔」 1976年頃  
和紙  
岩絵具



「顔」 1963年頃  
和紙  
岩絵具

creativity

オリジナルを追求しつづける「試み」と、それを伝える「試み」。

# 中村正義の美術館

日本画でありながら日本画ではない。  
オリジナルを追求した作品を創造し続けた  
中村正義という人がいる。  
その自宅を美術館として運営・管理し、  
その魅力を伝え続ける美術館館長の  
中村のりこさんに



### あるべきところにあるべきものがある

中村正義。「輪廻物語」「気球揚る」などで有名な日本画家・中村岳陵に師事し、36歳の若さで日本美術展覧会、いわゆる日展の審査員に抜擢されながら、画壇特有の徒弟制度や伝統、格式を拒み、鮮烈かつ大胆な行動力と既存概念を打ち破る独自の世界観で新たな画風への挑戦を生涯貫いた画家だ。

そんな画家の代表作「顔」シリーズをはじめとする数百点にも及ぶ作品が春の3ヶ月間、そして秋の3ヶ月間、しかも週末と祭日のわずかな間だけ観ることができる。場所は、画家の印象的な生き方からはイメージしにくい川崎市麻生区の、里山の雰囲気の色濃く残す細山地区に小さく、そして静かに、しかし異彩を放って存在する「中村正義の美術館」だ。

外装や緑豊かな落ち着いた庭は樹々の生長を除けば画家の生前とほとんど変わることはない。変わったのは訪れるお客さんが画家や画商などの関係者から、子供を連れたファミリーや自分の休みと開館日が重なることを心待ちにしている喫茶店経営者…等になったことくらいかもしれない。

訪れるお客は提供されるお茶や菓子を前に誰もがのんびりと絵を眺め、そして思い思いの場所に座り込んで落ち着いた時間を過ごすしていく。

建物と庭、そして画家の絵がなぜ見事に調和した「あるべきところにあるべきものがある」空間の広がるのが「中村正義の美術館」だ。

### 絵への興味ではなく父への愛着

自宅であった小さな建物が川崎市初の美術館として誕生したのは画家が亡くなって11年の時が経ってからのこと。生前から「美術館のような建物」と訪れる人々からいわれていた建物を本当に美術館にしようと考えたのは、現在美術館の館長として企画や運営を取り仕切中村のりこさん。画家の長女だ。

「父が死ぬまで絵にはまったく興味がなく、現在でも強い関心があるわけではない」という、のりこさんだが、「父と生前から親交のあった方々をはじめ、多くの人から父の生き様や偉業を聞き、また倉庫に眠る数百点にも及ぶ絵を考えると、このまま眠らせておくのはいけない、なかなかすごい人だったらいい」と少しずつ感じるようになったという。

「絵への興味ではなく、父への愛着」でスタートした美術館も、今年で20周年を迎えた。

「今でも父の絵のことは他人から教わることも多く、ほかの画家の絵もあまり詳しくないですよ」と笑う。

「とにかく好きな人に観てもらいたい。今のままの静かな環境でのんびり楽しんでもらえば」という美術館だけに運営は楽ではない。だから開館は春と秋。美術館の運営というより、美術館を守ってきたという感じだという。だからこそ混雑で人を見に行くような美術館にならずに済んでいるともいえるかもしれない。



### 【中村のりこプロフィール】

愛知県名古屋市生れ。1961年、父・正義とともに川崎市細山に移住。1988年自宅を美術館としてオープン。「中村正義の美術館」館長として春・秋の年2回の企画展を実施。20年にわたり運営している。



## オリジナルを追求した 作品を創造

美術館オープン当初は「日本画の美術館ができたというから来たのに」とあきれたり、怒ったりして帰るお客もいたという。

画家がアトリエ中に並べ、ボンドを通常使われる膠代<sup>にかわ</sup>りに使用し、岩絵具に蛍光塗料を混合した絵具で生涯筆を入れ続けた「顔」シリーズはまったく理解されなかった。それが「『顔』を見に来た」というお客さんが増え始めたのはごく最近のことだ。そして一度訪れたお客の多くがリピーターとなるという。

下絵なしにいきなりキャンバスに描き始められたという数百点に及ぶ「顔」シリーズは不思議な作品群だ。

「この『顔』が良い」と感じる作品がまた違う機会に観るとまったく別の「顔」に変わってしまう。観るたびに違う捉われ方をすることは絵の評価が定まらず揺れ動くということになる。個人の印象ですら定まらない絵は人によってもまったく違った価値を持つことになる。

「父は数多くの『顔』を並べてどれが好きかを聞き、それぞれがまったく違う『顔』を選ぶと喜んでいました。そこには父の目指す絵のカタチがあったんだと思っているんです」

## 未完の美術館

画家の絵の評価は、画家自身が生涯筆を入れ続けることで未完であるように、定まることを知らないのかもしれない。

若き日「日展の天才」「速見御舟の再来

といわれた日本画家の姿は「顔」からは見えてこない。オリジナルを追求した作品を創造し続けた姿は共感を得るが、絵の評価へは大きくはつながっていないように見受けられる。

「絵の評価は観る人それぞれが感じてくれればそれでよいものです。まずは父の作品を多くの人に観てもらいたい。10年、20年後まではわかりませんが、そのためにもなんとかできるだけこの「中村正義の美術館」を続けていければよいと考えているんです」

観るものを圧倒するだけでなくなぜか「好み一枚」を探したくなる「顔」シリーズ。それだけでなく、日本画の大家速水御舟の再来ともいわれたその腕を振ったまさしく日本画らしい数々の作品、所蔵品ではないが大きさで二十畳分もある、映画のために描いたという「源平海戦絵巻」。そして「舞妓」シリーズ。「中村正義の美術館」を訪れてもいつも観られるとは限らないが、何度も足を運んで絵、そして画家の住んだ建物や庭を一日中眺めのんびりするもよし、館長と語り合うもよし、画家の生き方に思いを馳せ、自分自身の生き方に重ね合わせてみるのも一興の、まだまだ未完を感じさせる美術館だ。

Text by: 夏沢冬樹

## 【中村正義プロフィール】

- 1924年 愛知県豊橋市に生まれる。
- 1946年 中村岳陵に師事、日展に初入選。
- 1950年 第6回日展「<sup>び</sup>谿泉」(豊橋市美術博物館蔵)を出品、特選となる。  
1952年にも「女人」で特選を受賞するが肺結核のため1957年まで制作活動を中断する。
- 1960年 第3回新日展の審査員となる。
- 1963年 個展「男と女」(上野松坂屋・名古屋丸米)を開催。従来の画風を脱した野心作30点を発表する。
- 1964年 映画「怪談」(小林正樹監督)のため「源平海戦絵巻」5部作(国立近代美術館蔵)を制作。
- 1966年 個展「顔の自伝」(日本画廊)開催。
- 1967年 直腸癌の手術を受ける。
- 1970年 写楽研究の成果「写楽」(ノーベル書房)を出版。
- 1974年 人人会を結成。第1回人人展(日本橋三越)開催。
- 1975年 東京展市民会議を創設。事務局長として奔走。第一回東京展(東京都美術館)開催。
- 1977年 4月16日肺癌のため死去。享年52歳。
- 1980年 NHK日曜美術館「私と中村正義」放映。  
「異端の天才画家 中村正義」展(豊橋市美術博物館)開催。  
『中村正義画集』(講談社)刊行。
- 1988年 川崎市の自宅を美術館(当館)としてオープン。
- 1997年 「没後20年-中村正義」展。(豊橋市美術博物館、川崎市市民ミュージアム、新潟美術館)開催。
- 1998年 中村正義の美術館10周年の記念として「創造は醜なり」(中村正義 著/美術出版社)刊行。
- 2005年 TV東京 美の巨人たち「100枚の自画像」放映。

## 中村正義の美術館

### ■開館期間

- ◇春の開館…3・4・5月
- ◇秋の開館…9・10・11月

### ■開館日

- ◇金・土・日・祝日

### ■開館時間

- ◇午前11時～午後5時まで  
(夏・冬は閉館しています)

### ■入館料

- ◇一般…500円(450円)
- ◇学生…300円(250円)
- ◇小中生…200円(150円)
- ◇65歳以上…300円  
( )内は10名以上の団体料金

〒215-0001

神奈川県川崎市麻生区細山7-2-8  
TEL 044-953-4936  
FAX 044-953-4966

